

令和 6 年度第 1 回奈良市環境審議会会議録			
開催日時	令和 6 年 1 2 月 2 4 日（火）午後 2 時から 3 時 3 0 分まで		
開催場所	奈良市役所 北棟 6 階 6 0 2 会議室		
出席者	委 員	藤井会長、小松原副会長（リモート参加）、瀬戸委員、境内委員、豊田委員、綿井委員、林委員、河野委員、小坂田委員、武田委員、土井委員、二宮委員【計 1 2 人出席】	
	事務局	【環境部】 山口部長 【環境政策課】 増田課長、本田課長補佐、河合課長補佐 石飛係長、出口係長、佐藤、鈴江	
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	担当課	環境部 環境政策課
議 題 又は 案 件	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗状況・評価結果の報告について 2 奈良市ゼロカーボン戦略アクションプランの策定について		
決定又は取 り纏め事項	1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗状況・評価結果の報告について、事務局および小松原副会長より説明・報告があった。 2 奈良市ゼロカーボン戦略アクションプランの策定について、事務局より説明があった。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
1 奈良市環境基本計画推進会議の進捗状況・評価結果の報告について			
・奈良市環境基本計画推進会議座長の小松原副会長より、今年 10 月に開催された第 1 回環境基本計画推進会議について資料を基に、次のとおりその報告があった。推進会議の 1 つ目の議題は「第 3 次奈良市環境基本計画 令和 5 年度実績評価コメントのとりまとめについて」であり、各課から出てきた自己評価結果を推進会議で点検し評価コメントを返すという流れを経て作成されたものが本日の資料 2-2 である。内容は 12 ある実績評価の対象指標それぞれの担当課自己評価シートと評価コメント、また全体的なコメントとして総括コメントが掲載されている。この評価コメントについては、次年度の指針に反映できるよう、環境審議会承認いただいた後、事務局より速やかに担当課へフィードバックを行う予定である。 ・また続けて小松原副会長より、推進会議の 2 つ目の議題となった自己評価を行う際の評価基準について、次のとおり報告があった。昨年度の推進会議にて、各担当課が自己評価を行う際の指標別点検評価基準表について、SDGs の観点を取り入れるのが望ましいという議論があり、それを受け、その評価基準の作成について推進会議の参加者より意見を伺いたいとのことで、今年 10 月の推進会議でその議題の議案が上がった。その際に参加者より次のとおり意見が出た。 ①評価基準表の自己評価のところで 1 点、2 点、3 点と自己評価点をつけることとなるが、評価点の 2 点と 3 点の違いがわかりにくいため、もう少し明確にすべきである。 ②SDGs の 17 の目標に各 10 項目程度の具体的中身があるのでそれと関連付けることができればよいのではないか。 ③関連する SDGs の項目は、アイコン表記ではなく、文字情報で表記すべきである。 第 3 次奈良市環境基本計画に分野別の施策が掲載されているが、これは本計画に掲載されている奈良市環境ビジョンを実現するための施策であり、この方針に沿って各担当課が取り組			

んだ内容が本日の資料 2-2 である。この計画書とこの資料を合わせて見れば、各担当課がどのように施策に取り組んだかわかるものである。環境基本計画推進会議は、数値そのものではなく、この環境基本計画がどのように行政で考えられ進められているのかということを見ていく、検討していくというのが目的と考えている。本日の資料 2-2 の自己評価シートのア・イ・ウまではまさに数値的な目標であるが、推進会議の評価コメントについては実施状況等の説明等を踏まえながら作成している。第 3 次奈良市環境基本計画は SDGs の教科書ではないと言われるぐらい SDGs に力点をおいている計画書であることが、本計画の作成段階では環境審議会において認識されていた。そのため本来であれば、関連する SDGs の項目を踏まえ資料 2-2 の自己評価シートのエが出されるべきではないかという意見が 10 月の推進会議で出ていたが、本日の資料については、関連する SDGs の項目との関わりの中で記されたものがほとんどない。そのため、この正当性なども含めて審議会委員の皆様に議論いただきたい。

- ・ 豊田委員より、自己評価シートの進捗率について、指標によっては 0%や 100%のものがあるが、最終目標に対しての進捗率であると思うが、どのように算出しているのかという意見が出た。
- ・ 豊田委員より、自己評価シートのシート No.1 について、関連する SDGs の項目に 7 番のエネルギーや 13 番の気候変動も関連する内容であると思うが、それらが入っていないのは、どのように考えるべきであるのかという意見が出た。
- ・ 二宮委員より、自己評価シートのそれぞれのシートにおいて、関連する SDGs の項目が記載されており、複数の項目があるが、その中でも一番重要な SDGs の項目は、どの項目であり、その重要な項目に重点をおいて実施しているという表現の仕方のほうがわかりやすいのではないかという意見が出た。
- ・ 二宮委員より、自己評価シートにおいて、構成事務事業の欄のところに予算について記載があるが、評価をするうえで予算のことには特に触れておらず、例えば、シート No.3 の脱炭素推進補助事業や公共施設脱炭素推進事業であれば、前年度と比べ大きく変わり 2 億数千万円との予算がついている一方で、環境ポイント制度であれば、予算がゼロになっているが、それらの事業においては、前年度と比べ何か更新があったのであろうかという意見が出た。

2 奈良市ゼロカーボン戦略アクションプランの策定について

- ・ 事務局より、ゼロカーボン戦略アクションプランについて資料を基に説明があった。
- ・ 二宮委員より、2030 年度までに温室効果ガスの 2013 年度比 50%削減を目標としているが、COP29 では 2019 年度を基準とするような議論があった。アクションプランにおいてもそのような動向を踏まえて修正するべきではないかという意見が出た。
- ・ 二宮委員より、令和 6 年度より森林環境税の徴収が始まっており、当該税収は森林保護などに活用されることが想定され、アクションプランにおいても森林吸収源の整備に言及している点で関連が深いと思う。アクションプランで森林環境税の概要や奈良市として想定している具体的な使い道などを示すと良いと思うという意見が出た。
- ・ 豊田委員より、現状ではアクションプランではなく脱炭素に関するパンフレットという印象を受けるが、アクションプランは各主体の行動計画であるべきであり、奈良市の特性を踏まえた上で市民や事業者が何から取り組んでいけばよいのか優先順位も示されていることが望ましい。また、なぜアクションプランを策定するのかロジックが示されていることが望ましいという意見が出た。
- ・ 豊田委員より、市民や事業者温室効果ガス削減につながる取組を行ってもらうために、行

政としてそれを後押しする支援策を設けている（今後設ける）ということがもっと記載されているべきであるという意見が出た。 ・ 豊田委員より、市のアクションだけではなく、市民や事業者にもグリーン電力の使用を促す内容を追加することはできないかという意見が出た。 ・ 境内委員より、日本では中小企業が大多数を占め、温室効果ガスの排出量割合も多い中で、前向きに脱炭素に取り組むことができていない「中小企業」に着目した内容の追加掲載を検討するのはどうかという意見が出た。 ・ 綿井委員より、事業者のアクションにおいては温室効果ガス排出量の見える化を示しているが、市民のアクションにおいても同様の内容を示してはどうか。また、奈良ストップ温暖化の会（NASO）で設けている環境家計簿というツールがあり、毎月、電気やガス等の使用量を入力するとCO2の排出量が自動的に計算・表示されるサイトを運営しているためアクションプラン内での紹介を検討してはどうかという意見が出た。 ・ 瀬戸委員より、市民の方にとってt-CO2という表記は馴染みがないのではないかと。文章の最終行「1世帯あたりでは～」だけでもkg-CO2での表記とするべきではないかという意見が出た。 ・ 瀬戸委員より、市民のアクションプラン内の具体的なアクションに対して節約金額が示されているが、初期投資金額は含まれていないと思われる。初期投資がネックになり踏み出せない方々も多くいると思われるが、市としてそれをバックアップする補助制度などがあれば記載してはどうかという意見が出た。	
資 料	【資料1】 環境基本計画の推進について 【資料2－1】 令和6年度第1回奈良市環境基本計画推進会議報告書 【資料2－2】 令和5年度（2023年度）実績担当課自己評価シート 【資料3－1】 奈良市ゼロカーボン戦略アクションプランの策定について 【資料3－2】 奈良市ゼロカーボン戦略アクションプラン（案）